

# 温室効果ガス排出量の推計方法の概略

< エネルギー起源CO2排出量の算定式 >

活動量

×

活動量あたりの  
エネルギー消費量

×

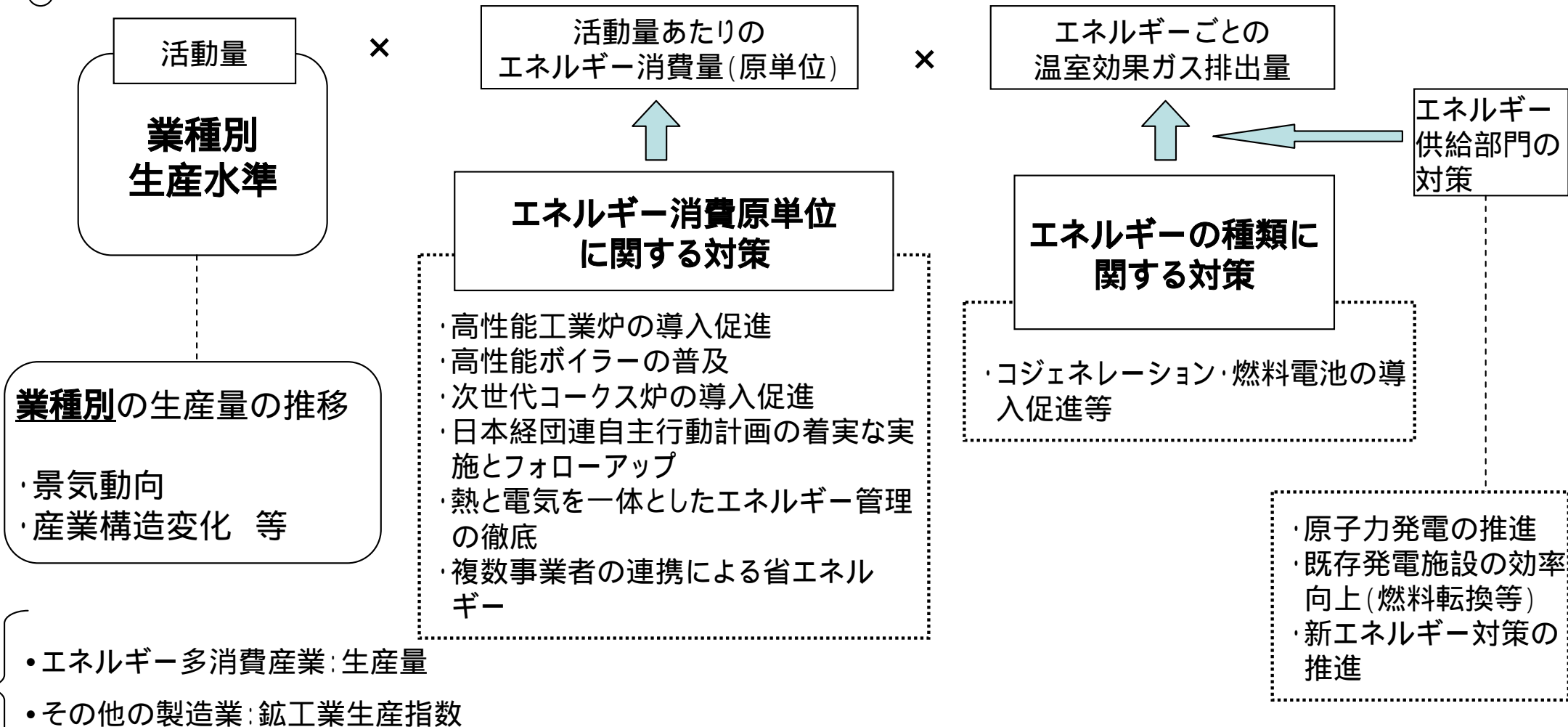
エネルギーごとの  
温室効果ガス排出量

=

温室効果ガス排出量

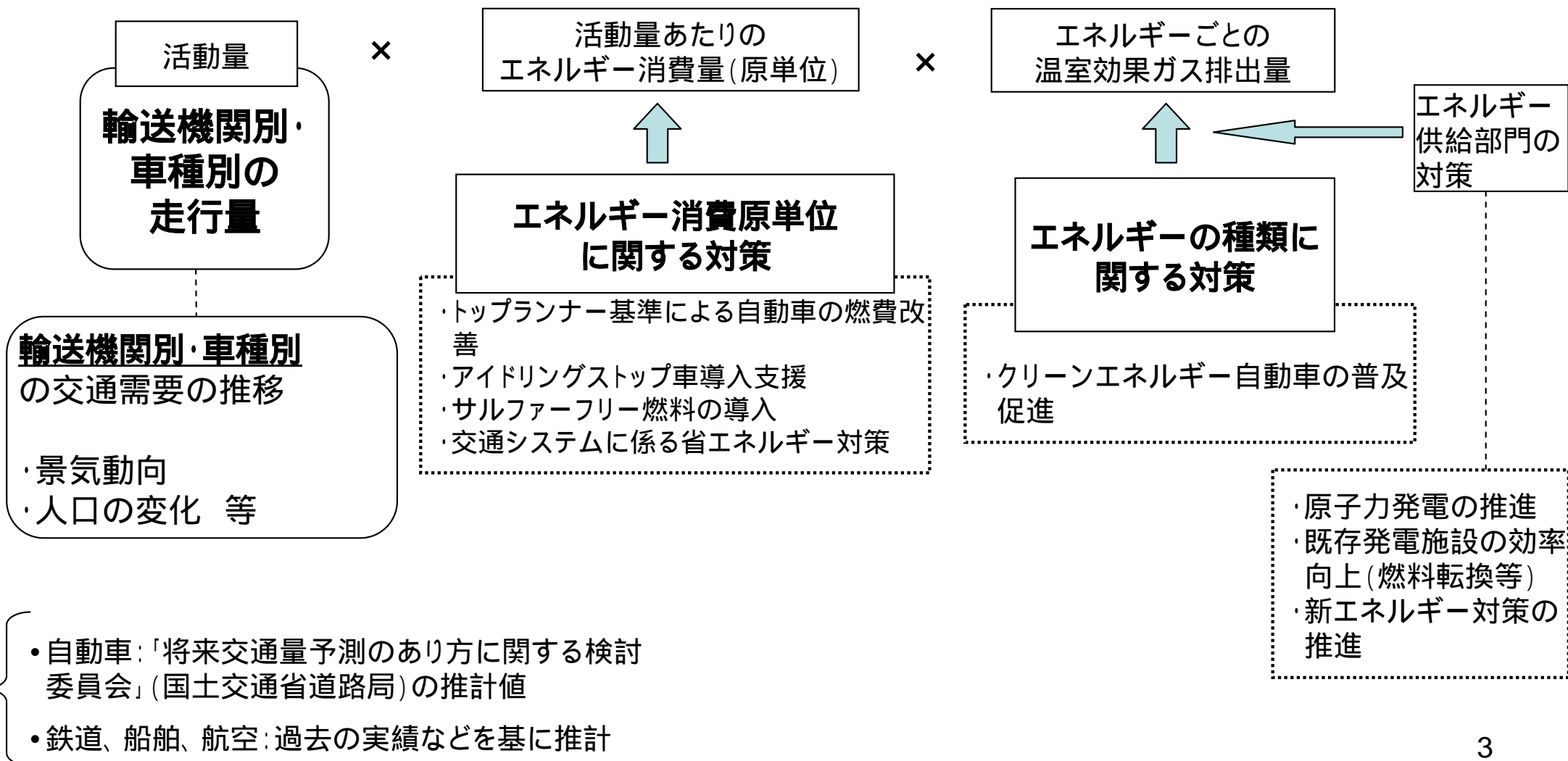
# 産業部門

生産量の変化に伴うエネルギー消費量の減少等により、  
温室効果ガスの排出が抑制される。



# 運輸部門

自動車燃費の改善等によりエネルギー消費量の伸びが抑制される一方、乗用車の交通需要の伸び等により、温室効果ガスの排出量が増加。



# 家庭部門

機器の効率の改善等によりエネルギー消費量の伸びが抑制される一方、世帯数の増加等に伴いエネルギー需要が増加し、温室効果ガスの排出量が増加。

活動量

×

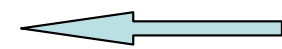
活動量あたりの  
エネルギー消費量(原単位)

×

エネルギーごとの  
温室効果ガス排出量

エネルギー  
供給部門の  
対策

世帯構成別  
世帯数



エネルギーの種類に  
関する対策

世帯構成別の世帯数の推移

- ・人口の変化
- ・世帯構成の変化
- ・世帯数の変化 等

エネルギー消費原単位  
に関する対策

- ・トップランナー基準による機器の効率改善
- ・省エネ機器の買換え促進
- ・高効率給湯器の普及
- ・高効率照明の普及
- ・待機時消費電力の削減
- ・HEMSの普及
- ・住宅の省エネ性能の向上
- ・エネルギー情報提供の仕組み作り

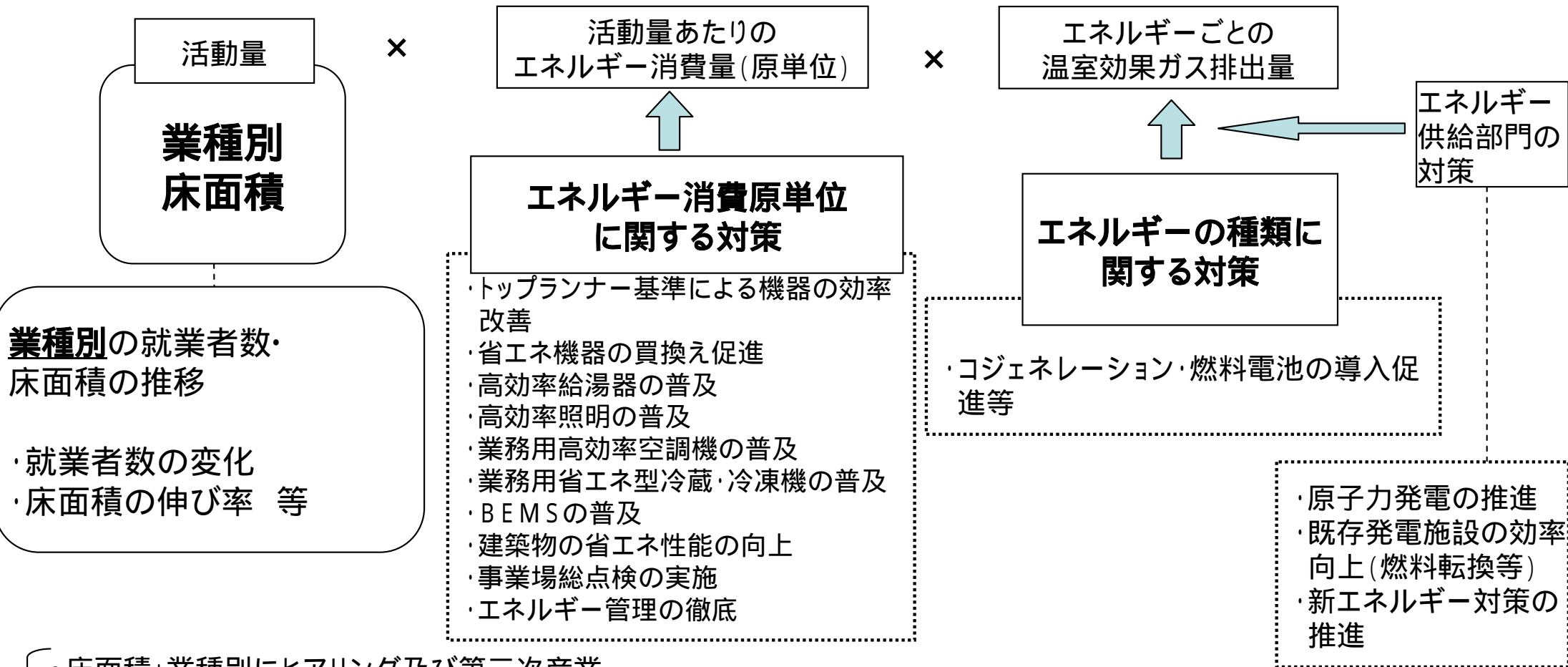
- ・コジェネレーション・燃料電池の導入促進等

- ・原子力発電の推進
- ・既存発電施設の効率向上(燃料転換等)
- ・新エネルギー対策の推進

・世帯数: 国立社会保障・人口問題研究所  
の中位推計

# 業務その他部門

機器の効率の改善等によりエネルギー消費量の伸びが抑制される一方、床面積の増加等に伴いエネルギー需要が増加し、温室効果ガスの排出量が増加。



・床面積:業種別にヒアリング及び第三次産業就業者数、高齢者比率などを説明変数として回帰推計を行った値

< エネルギー起源CO2以外の温室効果ガス排出量の算定式 >

活動量

×

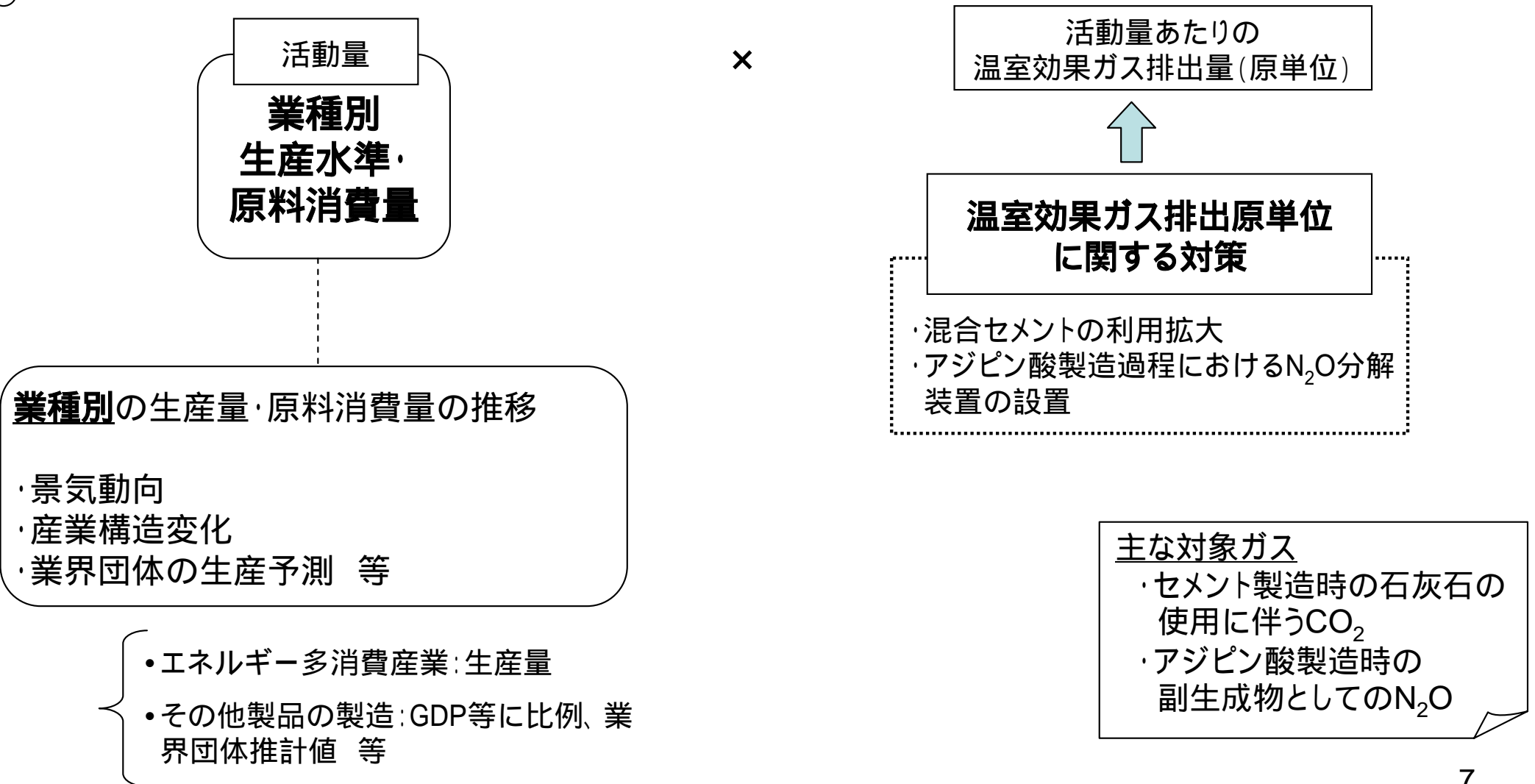
活動量あたりの  
温室効果ガス排出量

=

温室効果ガス排出量

# 工業プロセス部門

生産量・原料消費量の減少等により、  
温室効果ガスの排出量が減少。



# 農業部門

生産量等の減少により、  
温室効果ガスの排出量が減少。

活動量

×

活動量あたりの  
温室効果ガス排出量(原単位)

品目別  
生産水準等

温室効果ガス排出原単位  
に関する対策

品目別の生産量・家畜頭数・  
水田面積・肥料施用量の推移

- ・景気動向
- ・産業構造変化 等

主な対象ガス

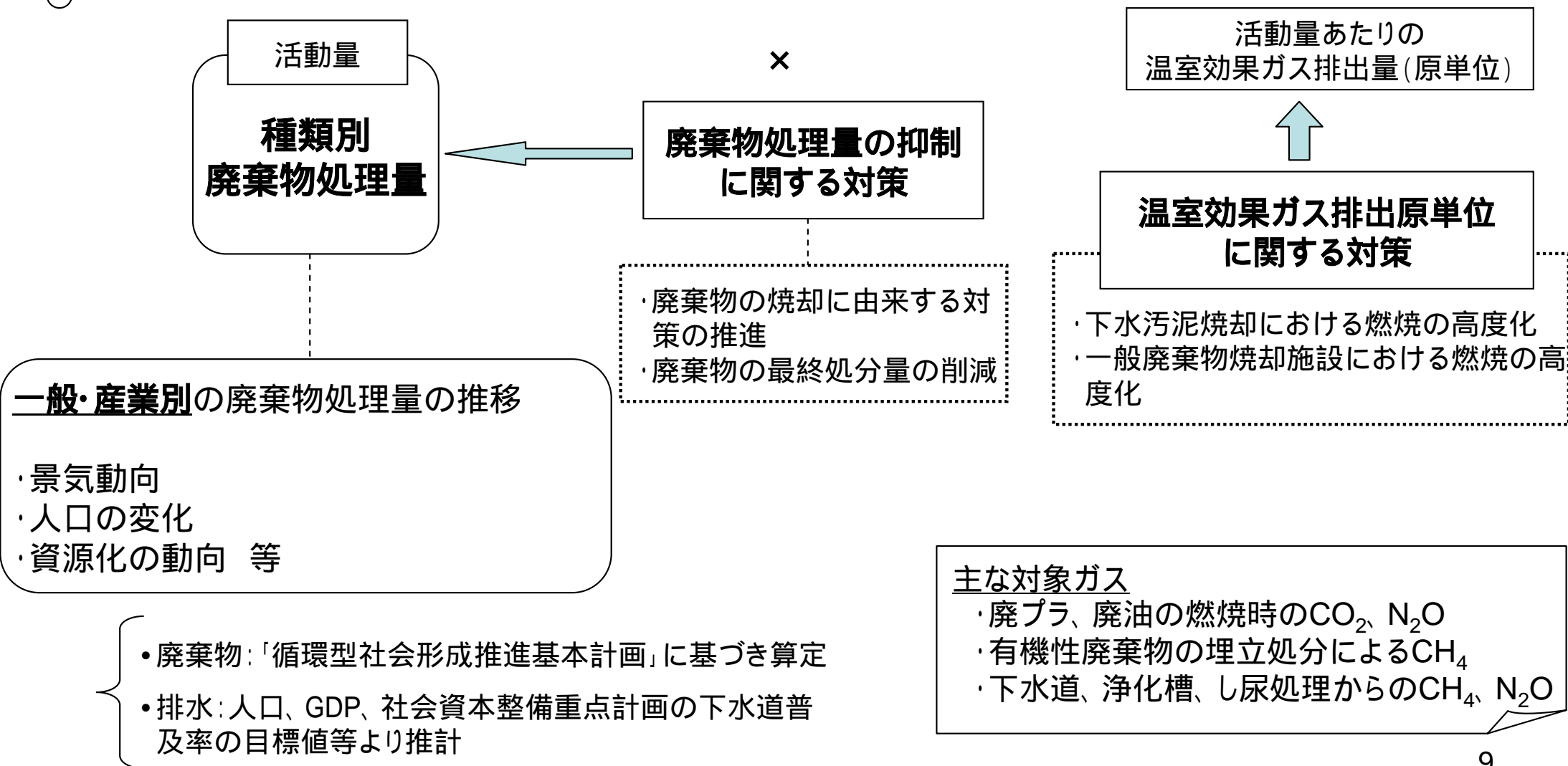
- ・家畜の消化管内発酵(いわゆるゲップ)に伴う $\text{CH}_4$
- ・水田内の発酵による $\text{CH}_4$
- ・家畜排せつ物の処理に伴う $\text{CH}_4$ 、 $\text{N}_2\text{O}$
- ・肥料の施用時の $\text{N}_2\text{O}$

- ・「食料・農業・農村基本計画」の数値目標に基づき算定



# 廃棄物部門

再資源化の促進や廃棄物の高度処理等により、  
温室効果ガスの排出量が減少。



# 代替フロン等3ガス部門

冷媒の回収等により排出原単位が改善される一方、生産量・使用量の増加に伴い温室効果ガスの排出量が増加。

